

平成24年(ワ)第206号 柏崎刈羽原子力発電所運転差止め請求事件
原告 吉田隆介 外131名
被告 東京電力株式会社

意見陳述書

平成25年2月4日

新潟地方裁判所 第2民事部合議係 御中

原告番号120

伊藤 延由

東京電力福島第一原子力発電所事故による村の崩壊

1. はじめに

題記について陳述の機会を頂きました事に感謝いたします。

私の実体験を通しその被害の悲惨な状況をお話させて頂きます、職務柄主に福島県相馬郡飯舘村の状況をお話させて頂きます。

しかし、私が訴えたいのはこの悲惨さは飯舘村のみに止まらず事故時の環境条件により全国何処でも起きうると言うことです。

たまたま3月12日から放射性物質が放出され15日に至りそれまで海側に向いていた風向きが内陸に向かいました。

そして放射性物質を含んだ雲が飯舘村を覆ったとき雨が降り雪に変わりました、結果多くの放射性物質が飯舘村に降下したのです。

風向きが変われば飯舘村と同じ被害が何処でも発生する可能性があると言う事です、事実放射性物質は何処まで拡散したのか不明です、報道では長野県の椎茸、静岡県のお茶、千葉県の手紙など汚染されている事実があります。

さらに一度拡散した放射性物質を除去する手立ては現在の技術ではありません、復興の手順にしても誰も経験していない為に模索状態で、避難はしたが何時村に帰れるか二年なろうとしているのに未だ示されない、これが原子力事故の被害の本質です。

飯舘村や福島県の問題と捉えず原発事故があれば何処でもこの悲惨な状況を味わうのです、柏崎刈羽原発においても決して例外ではないと言うことです。

今回の事故で被災している住民に共通している事は“住民には一切負うべき責任は無い”ということであり、“苦難のみを負うっている”のです。福島県民は原発電力の恩恵には浴していない、ことに飯舘村は電源三法交付金の恩恵にも浴していない、一旦事故が起これば原発からの距離や交付金の恩恵に関係なく過酷な被害を与えるのが原発事故です。

2. 私の飯舘村とのつながり

2009年（平成21年）9月に東京のIT企業（前の勤務先）から、飯舘村に農業研修所を開設するので管理人兼農業従事者への要請があり受託、研修所開設と同時に2010年（平成22年）3月から飯舘村住んでいました。

3. 飯舘村概要

飯舘村は、

- ① 福島県の浜通り阿武隈山系に位置する平均標高400～500mの地
- ② 村の75%が山林がしめる面積230平方キロメートルの中山間地
- ③ 人口6,200人、世帯数1,700世帯（何れも震災前）
- ④ 四季折々の花や、山の恵が豊かな村
- ⑤ 所得レベルは福島県内の下位に属するが村民の心は豊かな村
- ⑥ 高齢化率の高い村

研修所の所在地区は、

- ① 村内20行政区の小宮行政区
- ② 小宮行政区の野手神部落（地区）14世帯の限界集落
- ③ 村民で農業に従事する者は一世帯一名のみ

4. 研修所概要

- ① 農地（水田2.2ha、畑1.0ha、山林その他2.0ha）
- ② 30名の宿泊設備、研修施設及び農業機器類
- ③ 減農薬及び有機栽培の米作、野沢菜など野菜、ブルーベリーなどの果樹
農業は2010年（平成22年）1年のみでした、2011年（平成23年）は近隣の遊休農地約4.0haを借り受け規模拡大の計画でした。

5. 近隣住民の暖かい支援と絆

私は農業経験も全く無く勿論農業機械（トラクター、田植え機、コンバイン等）の操作も未経験でしたが、一年目の米作りは収量は少ないものの何とか収穫までたどり着きました。

これはひとえに近隣住民の温かい支援があって達成できた事です。

例えば2010年4月4日（日）はそれまで遊休農地だった田んぼの畦（あぜ）の雑草の野焼きを部落総出で対応してくれました、これは病虫害駆除には欠かせないものでした。

その他にも農作業の全てに対し未経験の私を指導してくれる人たちでした。

さらに日々の生活でも、美味しい茸や山菜など自分で食べずに研修所に届けて丁寧に食べ方なども指導してもらいました。

6. 飯舘村の生活

村の概要で述べた通り所得レベルでは県内では低位にありながら私には心豊かな生活と感じられました、私に対する暖かい支援も心豊かさの現われと思っています。

多くの世帯は三世帯同居で祖父母が孫の面倒を見て両親が働くというのが普通に営まれていました。

私が住んでいた野手神部落では本格的な農業を行っているのは一世帯のみで、他はほとんどが遊休農地でしたが、自宅近くの畑や水田では自家消費する程度の野菜などを作り、時々取れすぎたからとお裾分けがあったり、茸を栽培している人は出荷出来ないものだけ食べてとお裾分け。

夕食の献立を決めてから畑に行って野菜を収穫する、畑で完熟したトマトなどを食べられる貨幣経済に現われない“豊かさ”がふんだんにありました。

村の人口構成は高齢化率が高く本格的な農業経営はしていませんでしたが、畑作や山菜、茸とりなどで比較的元気なお年寄りが多い地区でした。

こんなこともありました、お世話になっているSさん（82歳）にお願いし、研修所を訪ねた若い人たちを山菜取りに案内しましたが、とてもついて行けないほど健脚でスピードダウンをお願いした。

7. 震災発生

私は震災発生後6月25日に福島市内に避難し飯舘村に通勤し研修所管理業務に携わりながら飯舘村の実情をつぶさに見てきました。

飯舘村では3月11日に発生した地震の被害は軽微なもので、海岸からの距離もあり津波の被害は皆無でした。

3月12日には双葉郡の被災者が約1,200名が村に避難してきました。

数日後（3月18日頃）避難者は飯舘村の汚染度合いが高いと知らせを受け二次避難を開始しました。

飯舘村の被害は3月12日の原発事故に起因する放射性物質による被害ですが、3月21日村の簡易水道から放射性ヨウ素が検出されたことから始まりました。

この時まで政府が発表する“直ちに健康に被害は無い”という情報に従いほぼ平常と同様の生活を避難完了する7月上旬まで過ごしておりました。

村の一部数軒が原発から30km圏内で屋内退避でしたがその他の地域は全く制限を受けない地域でした。

8. 震災がもたらしたもの

4月22日全村計画的避難区域に指定され村外への避難を指示された結果村民はこれまで経験したことの無い過酷な生活環境を強いられ、何時まで続くのか示されないまま避難生活をしています。

飯舘村は現在、汚染度合いが高い長泥地区のみ地区への出入りは制限されていますが、他の地域は出入り自由ですが宿泊は禁止されている状況です。

(1) 絆の喪失

①家族の絆

仮設住宅やみなし仮設住宅の民間アパートは狭隘で三世帯同居が不可能となり、震災前1, 700世帯が3, 100世帯に分かれて避難している。

結果的に独居、老々世帯が増加し寂しい仮設住宅生活を強いられています。

これらの結果、これまで村内の年間死者は100人に満たなかったが、2011年度は135名だったと報告されています。

仮設住宅の環境はそれまで自宅で生活している時には感じたことの無い他者(隣人)への気遣いなど強いストレスになっています。

②部落、行政区の絆

仮設住宅への入居が部落ごとと行政区ごとで行われなかった為それまで保たれていた部落内の絆を喪失しました。

村では暇なときにお訪ねすると必ず“よらせ(寄って行きなさい)”、“お茶のまっせ”と誘ってくれるのが日常でした。

行政区では独自の伝統芸能などがあり行政区のイベントに花を添えていました。

(2) 示されない復帰(帰村)の目処

①村は復興に向けて除染により線量を下げると除染の試行をしているが、75%が山林の村では震災前の環境は到底望むべくもありません。

②震災後二年、仮設への避難生活をはじめて1年7ヶ月を経過するも、何時帰村出来るか明示されません。

⇒ 放射能汚染事故の特徴、未経験の分野で“やって見ないと分からない”。

③帰村しても生活の糧(農産物、山菜、茸などの産物)が得られません。

(3) 示されない産業復興の目処

村の主要産業は農業であるが農地が汚染され2011年から作付け制限を受けており、農地の除染も試行しているがかんばしいものではありません。

さらに、除染が功を奏し作付け出来たとしても“飯舘村産?”と言う風評被害の克服に至るのは至難です。

実際私は2011年に農作物を数種類栽培し放射線量を計測しましたが、さつまいもが101 bq/kgと食品の基準値を超えましたが他は全て基準内でした。

9. 除染は

(1) 環境の回復は困難

事故により排出された放射性物質を除去する手立ては無い。

①震災前の公衆の被ばく量1.0 mSV/年間は回復できない。

②飯舘村では20 mSV/年間以下が帰村の目処と示されている。

⇒ この環境で子どもたちや若い人を住まわて良いのでしょうか。

③孫たちと一緒に生活できる環境になったとき村が復興したといえる。

⇒ この要求は不当な要求でしょうか？

(2) 健康についての脅威

放射線による健康被害は、小児の甲状腺がん、大人の場合は晩発性がんや白血病の可能性が言われていますが、被ばく後数年から数十年後に発病の可能性があり、被災者は終生この脅威と付き合っていくことになります。

ことに小児の甲状腺がんなどは発生しなくて当たり前ののですが、子どもたちは自分の身体で心配しながら証明することになります。

(小児の甲状腺がんは100万人に1～2人とされている)。

(3) 過去の原因事故

地震や津波が原因で起きているわけではない。

国会事故調の結論も『人災』と結論付けている。

これらの事から原発は現在の人知では制御出来ないプラントであり速やかに稼働を停止し廃炉にすべきです。

最後に皆様方におかれても原子力事故が如何に悲惨であるか是非現地を視察頂きたくお願い致します。

以上